



イヌバラ

86 編の端書きは 祈り。ダビデの詩 とあり、コラの子の賛歌の間にダビデの詩が入って来ています。これは密室で一人祈っているかのような非常に個人的な祈りと感じます。

1 連では詩人の信仰者としての姿を訴えています。

- ① 求道者である: 主よ、わたしに耳を傾け、答えてください。(1)
- ② 身分が低い: わたしは貧しく、身を屈めています。(1)
- ③ 慈愛により生きる: わたしはあなたの慈しみに生きる者。(2)
- ④ 精神的、靈的救いを求める: わたしの魂をお守りください(2)
- ⑤ 祈り続けている: 絶えることなくあなたを呼ぶわたしを。(3)

⑥ 神が唯一の拠り所: わたしの魂が慕うのは / 主よ、あなたなのです。(4)

詩人は神を拠り所とする根拠を次の 2 連で述べて、賛美しています。

- ① 恵み、赦す神: 主よ、あなたは恵み深く、お赦しになる方。(5)
- ② 祈りを聞く神: 苦難の襲うときわたしが呼び求めれば / あなたは必ず答えてくださるでしょう。(7)
- ③ 唯一、最高の神: あなたのような神は神々のうちになく / あなたの御業に並ぶものはありません。(8)
- ④ 全ての国々の神: あなたがお造りになった国々はすべて / 御前に進み出て… 御名を尊びます。(9)
- ⑤ 奇跡を行う神: あなたは偉大な神 / 驚くべき御業を成し遂げられる方 / ただあなたひとり、神。(10)

3 連で、詩人は衷心より願う二つのことを神に求め、その後に感謝を捧げています。

- ① 神の教える道: 主よ、あなたの道をお教えてください。わたしはあなたのまことの中を歩みます。(11)
- ② 神一筋の心: 御名を畏れ敬うことができるように / 一筋の心をわたしにお与えください。(11)
- ③ 感謝: 主よ、わたしの神よ / 心を尽くしてあなたに感謝をささげ / とこしえに御名を尊びます。(12)

最後にダビデの嘆きと推測される箇所が現れます。神よ、傲慢な者がわたしに逆らって立ち / 暴虐な者の一党がわたしの命を求めています。彼らはあなたを自分たちの前に置いていません。(14) と神に逆らい、敵対する者がいることを嘆いています。詩人は絶望的な苦難の状況で祈っています。

主よ、あなたは情け深い神 / 憐れみに富み、忍耐強く / 慈しみとまことに満ちておられる。わたしに御顔を向け、憐れんでください。御力をあなたの僕に分け与え / あなたのはしための子をお救いください。良いしるしをわたしに現してください。それを見て / わたしを憎む者は恥に落とされるでしょう。主よ、あなたは必ずわたしを助け / 力づけてくださいます。(15-17)。これから逃れる道は 良いしるし です。敵対する者を打ち倒す武力を求めているのではなく、詩人が神の憐れみにより、救いと力を与えられている、その姿を見て、敵対する者が恥を知るように、と求めているのです。

『讚美歌 21』は神の慈愛を歌う三つの讚美歌を関連させています。227「主の真理は」はユダヤ教の聖歌で、頌栄に用いられた旋律を採用したものです。<https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2013-04-04>

ジュネーブ詩編歌は、ビオラ・ダ・ガンバと、はじき、たたきつけるような音色の古楽器ハーブシコードと、オルガンの合奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=QMkQ6wMslfQ&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=86>